

Introduction

The British Broadcasting Corporation (BBC) is internationally famous for the quality and impartiality of its news items. BBC reporters also strive to make the news both interesting and as easy to understand as possible.

In this book we have chosen 15 items that we think would be of particular interest, and therefore motivating. Most of them are about Britain, as you might expect, and learners will gain an understanding of the life and culture of that country. As many of the issues covered are also important in Japan, there is the opportunity to discuss and compare the two countries. Japan itself is actually the focus of one item, which will provide an insight into the way the British view and report Japanese affairs. There is also an item about Antarctica, because of the international environmental importance of that area in the twenty-first century.

Sadly, 2022 saw the passing of Queen Elizabeth II, who had been on the throne of the United Kingdom and other Commonwealth countries for over 70 years. The first item of this volume shows the love and respect that the people felt for her.

As ever, new items of vocabulary are explained, and the notes (in Japanese) will explain any interesting points of grammar and usage of English. However, the most important purpose of this book is that the learners should be able to engage in the subject matter, research, and then discuss together. With this in mind, we have developed discussion questions that would encourage them to relate these new discoveries with what is already familiar to them.

The videos are easily accessible online. This will make it easy for students to study by themselves out of class.

We hope you enjoy the book and the videos.

はじめに

本書は、実際に放送された BBC (英国放送協会) のニュースを教材として、ニュースキャスターや街頭インタビューを受ける native speaker が自然に話す英語に触れることで、学習者のリスニング力や語彙力といった英語力を伸ばすことを目的としています。同時に、イギリスや世界で起こっている出来事やその背景となる社会や文化についても学べるように工夫されています。

扱うトピックは、政治、経済、環境などから、医療、人種、スポーツ、労働問題まで多岐にわたるものとし、できるだけ up to date でありつつも普遍的なものを選びました。学習する皆様の興味関心の幅を広げ、ご希望にお応えすることができれば幸いです。

前作に引き続き、ユニット内のコラムは、イギリス文化についての興味深い情報を増やして充実を図り、Questions も最初の Setting the Scene に始まり Follow Up にいたるまで、各ユニットで取り上げるニュースを順序良く掘り下げて理解が深まるように配慮しました。

本書を通じて、伝統と革新が共存する多民族国家イギリスが、4つの地域の独自性を保ちつつ、総体としてのイギリスらしさ (“Britishness”) を模索する今の姿を見ていただけたらと思います。現在のイギリスは、新型コロナウイルスによる混乱は落ち着いたものの、70年間にわたって国民を導いてきたエリザベス 2 世が崩御しチャールズ 3 世が新国王として即位するなど、新たな時代を迎えています。日本や世界に与える影響を考慮すると、今後もその動きから目が離せません。

このテキストを使って学習する皆様が、イギリスや世界の状況に興味を持ち、さらには、自分から英語ニュースに触れたり、英語で意見を述べたりと、ますます学習の場が広がっていきますことを、執筆者一同願っております。

最後に、BBC ニュースを教材として使うことを許可してくださいました BBC、編集に際してご尽力いただきました金星堂の戸田浩平様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

テキストの特徴

普段の生活の中で、ニュースの英語に触れる機会はあまりないかもしれません。本テキストは、初めて英語でニュースを観る場合でも無理なく取り組めるよう、多種多様なアクティビティを用意しています。単語のチェックや内容確認、穴埋め、要約、ディスカッションを通して、段階を踏みながらニュースを理解できるような作りになっているので、達成感を感じることができるでしょう。

STARTING OFF

Setting the Scene

実際にニュースを観る前に、ニュースで扱われるトピックについて考えるためのセクションです。トピックについての学習を始めるにあたり、身近な問題としてトピックを捉えられるような問題を用意しました。ここで先にニュースに関する情報を整理しておけば、実際にニュースを観る際に理解が容易になります。ニュースで使われている単語や語句、または重要な概念をここで予習しておきましょう。

Building Language

ニュースの中で使われる重要単語を学びます。単に日本語の訳語を覚えるのではなく、英語での定義を通して、また同義語を覚えながら、単語の持つ意味を英語で理解することを目指します。また、これらの単語はディスカッションを行うときにもおそらく頻繁に使うことになる単語ですし、ニュースの核となる単語ですので、発音もしっかりと確認することが重要です。

WATCHING THE NEWS

Understanding Check 1

実際にニュースの中身を詳しく見ていく前に、どんな意見が交わされているのかを確認します。ここで具体的にニュースのイメージをつかむことが大事です。全体像を簡単にでも把握することで、ニュース理解の大きな助けとなります。

Understanding Check 2

ニュースに関する問題を解くことで、どれだけニュースを理解できたか確認することができます。間違えた箇所に関しては、なぜ間違えたのかをしっかりと分析し、内容を正確に把握しましょう。**Filling Gaps** のアクティビティを行ってから **Understanding Check 2** に取り組むのも効果的かもしれません。

Filling Gaps

ニュースの中で重要な意味を持つ単語を聞き取ります。何度も繰り返し聞き、正しい発音を意識します。それと同時に、単語を正しく書き取ることで、耳と手との両方の動きを通して重要単語を習得することを目指します。もし時間に余裕があれば、穴埋めの単語を実際に発音し、耳と手に加え口も使って覚えると効果的です。

MOVING ON

Making a Summary

この箇所は、これまで観てきたニュースをまとめる部分でもあり、かつ **Follow Up** に至る前の準備の段階でもあります。しっかりと内容を理解しているか、このアクティビティを通して確認しましょう。また、**Building Language** で出てきた単語を再度使っているため、単語の習熟の確認ができるようになっています。

Follow Up

ニュースと関連したトピックをいくつか挙げてあります。ニュースで得た知識、また単語を活かして話し合いを行うためのセクションです。トピックには、その場で話し合えるものと各自調べてから発表し合うもの、両方が含まれています。そのニュースに関してだけでなく、今後似たような話題に接したときにも意見を述べるができるよう、このアクティビティで仕上げを行います。

Background Information

ニュースでは、必ずしもすべての事柄が説明されているとは限りません。ニュースの核となる事柄で、かつニュースの中ではあまり詳しく説明されていないことに関して、このセクションでは補足しています。ニュースをより深く理解するのにも役立ちますし、**Follow Up** での話し合いの際にも使えるかもしれません。

Behind the Scenes

ニュースに関連することではありますが、**Background Information** とは異なりここではニュースの核となることではなく、話題が広がる知識、教養が深まる知識を取り上げました。肩の力を抜き、楽しんで読めるような内容になっています。

- ・各ユニットで取り上げたニュース映像はオンラインで視聴することができます。詳しくは巻末を参照ください。
- ・テキスト準拠の Audio CD には、各ユニットのニュース音声と、ニュースを学習用に聞き取りやすく吹き替えた音声、Making a Summary を収録しています。



Contents

Unit 1	Paying Respects to the Queen	1
	国民に愛された女王の葬儀 [2分44秒]	
Unit 2	Music: The Key to Mental Health	7
	DJ がもたらすメンタルヘルスへの効果 [2分52秒]	
Unit 3	The London Olympic Park Today	13
	オリンピックの遺産を未来へ [3分30秒]	
Unit 4	Prescriptions for Healthy Food	19
	野菜の処方箋!? [2分43秒]	
Unit 5	The Last British Maker of Ballet Shoes	25
	危機に瀕するバレエシューズ [2分33秒]	
Unit 6	Nurses on Strike	31
	看護師たちのストライキ [2分53秒]	
Unit 7	Sustainable Antarctic Cruises	37
	南極クルーズで科学研究に貢献!? [2分58秒]	





Unit 8	The Wheelchair Rugby League World Cup	43
	車いすラグビーのワールドカップ [3分14秒]	
Unit 9	The First Female Mayor of Suginami	49
	イギリスから見た日本の女性区長の苦悩 [3分37秒]	
Unit 10	Rescue of an Ancient Tavern	55
	中世の建築物の存続はいかに [2分53秒]	
Unit 11	A New Treatment for Alzheimer's	61
	アルツハイマー病の新薬が登場！ [4分44秒]	
Unit 12	Liverpool's Slavery Heritage	67
	真の歴史を見据える都市リヴァプール [2分46秒]	
Unit 13	New Businesses in Sunderland	73
	起業で目指すサンダーランドの町おこし [2分42秒]	
Unit 14	Brexit: How Do We Feel Now?	79
	EU 離脱後の市民の葛藤 [3分27秒]	
Unit 15	Genomes of All Life in the British Isles	85
	すべての生物のゲノム解析を！ [3分09秒]	



Map of The United Kingdom

正式名称は **The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland** (グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)。**England** (イングランド)、**Wales** (ウェールズ)、**Scotland** (スコットランド)、**Northern Ireland** (北アイルランド) の4国から成る連合国家です (2023年現在)。

※() は本テキストでその地名、場所が登場するユニットを表します



Unit 1

Paying Respects to the Queen

2022年、エリザベス女王が崩御しました。国葬に先立ち、女王を愛した多くのイギリス国民にも哀悼の意を表す機会が与えられました。その様子を見てみましょう。

On Air Date 12 September 2022



STARTING OFF

Setting the Scene

What do you think?

1. Can you remember when Queen Elizabeth II passed away? How old was she, and what took place in London eleven days later?
2. How many people do you think attended her funeral?
3. Did you watch the funeral on television? If you had been in the UK, would you have gone to London?

Building Language

For each word (1-6) find two synonyms (a-l).

- | | |
|------------|--------|
| 1. dwarf | [][] |
| 2. mourn | [][] |
| 3. massive | [][] |
| 4. scent | [][] |
| 5. file | [][] |
| 6. coffin | [][] |

- | | |
|---------------|-------------|
| a. overshadow | g. parade |
| b. huge | h. gigantic |
| c. casket | i. box |
| d. odour | j. walk |
| e. minimise | k. smell |
| f. regret | l. lament |

WATCHING THE NEWS

Understanding Check 1

Read the quotes, then watch the news and match them to the right people.

- a. Our part is to say last goodbye, which is really sad.
- b. And are you prepared to be in those, what are going to be very long queues?
- c. ... but we have been preparing for many, many years.
- d. ... I've got to do it. I feel that's my duty to do it.



()



()



()



()

Understanding Check 2

Which is the best answer?

1. Lots of people queued to pay their respects to the Queen. Regarding those queues, which of the following is not correct?
 - a. Mourners had to dress respectfully.
 - b. Cameras and flowers were not allowed.
 - c. If the lines were long, people were told to move faster.
 - d. People might have had to wait overnight.
2. Maria, Vanessa, Amanda, and Moira gave us their reasons for being there. Which one of the following was not mentioned by any of them?
 - a. They wanted to be part of it.
 - b. The Queen served the country for 70 years.
 - c. It was their duty.
 - d. It was an important historical event.
3. Which of the following is a correct description of some of the route of the queue?
 - a. Start near Tower Bridge, go up the Thames, and across Westminster Bridge.
 - b. Go up the Thames, past Westminster Palace, then cross London Bridge.
 - c. Start at Tower Bridge, pass the Palace of London, then cross Lambeth Bridge.
 - d. Walk up the Thames, past the London Eye, then cross Lambeth Bridge.

What do you remember?

4. Until the Queen's lying-in-state began, where was 'home' for Vanessa? Why?

5. What did Amanda and Moira say when asked if they were prepared to be in such long queues?

6. Why was this day personally important for Commissioner Rowley?

Background Information

2022年9月8日、イギリスの元首だった女王エリザベス2世(Elizabeth II, 1926-2022)が享年96歳で崩御しました。1952年2月にジョージ6世(George VI, 1895-1952)が崩御するとすぐ、当時25歳だった娘のエリザベスはその責務を負って準備を進め、翌年6月に戴冠式が執り行われました。以来、常に真摯にその務めに向き合ってきた女王は多くの国民に愛され、2022年6月には在位70年を祝うプラチナ・ジュビリー(Platinum Jubilee)が4日間にわたり盛大に開催されました。近年では息子のチャールズ3世(Charles III, 1948-)現国王に公務を任せることが増えてきていた女王も、バッキンガム宮殿(Buckingham Palace)のバルコニーに姿を現し、イギリス歴代の君主で最長となった在位期間を祝いました。

女王の国葬は9月19日に執り行われることとなり、準備が進められました。棺は女王が亡くなったスコットランドのバルモラル城(Balmoral Castle)からロンドンに移送された後、ウェストミンスター議会議事堂内のホールに安置され、約25万人が弔問に訪れました。国葬には、日本の天皇・皇后両陛下、アメリカのジョー・バイデン大統領(Joe Biden, 1942-)をはじめとする海外の要人約500人を含む約2,000人が参列し、雨の中、沿道を埋め尽くすほどの多くの市民が女王の棺を見送りました。ウェストミンスター寺院(Westminster Abbey)での国葬後、棺はロンドン郊外のウィンザー城(Windsor Castle)に運ばれ、歴代君主が眠る聖ジョージ礼拝堂(St George's Chapel)に埋葬されました。

女王の死後、葬儀までの10日間、国中が喪に服して荘厳な儀式が続きました。実は式次第は1970年代にはすでに起草されており、女王自身が目を通し、細部には本人の希望も織り込まれていたのです。ロンドン滞在中や外国訪問中の崩御など、様々な想定のもとに多くの案が作成されていましたが、女王がスコットランド滞在中に死去した場合の「オペレーション・ユニコーン(Operation Unicorn)」と命名された案が実行されました。弔問のために棺の安置されたウェストミンスター寺院や、国葬、その後のウィンザー城への葬列では、近衛兵やさまざまな軍の部隊による護衛や行進が世界中に放映されました。

参考:

<https://www.theguardian.com/commentisfree/2022/sep/19/the-guardian-view-on-the-queens-funeral-stirring-emotions-that-transcend-logic>

<https://www.theguardian.com/uk-news/2022/sep/08/queen-elizabeth-ii-obituary>

<https://www.royal.uk/platinumjubilee>

<https://www.theguardian.com/uk-news/2022/sep/08/operation-unicorn-plans-if-queen-dies-scotland>

Watch the news, then fill the gaps in the text.

Lucy Manning: If you can measure love and respect in flowers, in people, then this is quite a statement. London's Green Park, now the park of many colours. The powerful (¹) of flowers, hanging in the air. But however many are here now will be (²) by the numbers who will stand, in a very British way, for hours and hours through the days and nights to (³) past the Queen's (⁴).

Manning: People who do make it to Westminster Hall, where the Queen's body will lie in state, have been told to expect very long queues. The fear is they could last up to 24 hours, and (⁵) have been warned they may have to wait overnight. If the lines are too long, they could be (⁶) so that people are unable to join. People have been asked to dress (⁷): no flowers, cameras, or filming allowed. Camping out on The Mall since Saturday, Maria from Newcastle plans to stay for the lying-in-state and funeral.

Maria Scott: She gave 70 years of (⁸) to us and it's the least I could do to er, go and pay my respects to the Queen. She done so much for us, um, as a country, it's, you know, I've got to do it. I feel that's my duty to do it.

Manning: Vanessa Nanthakumaran hopes to be the first in the queue. Home, a bench on Lambeth Bridge until they open the doors.

Vanessa Nanthakumaran: Our part is to say last goodbye, which is really sad. But, um, I wanted to (⁹) (¹⁰) that I would be part of it, and start queuing up from today, um, because I heard the queue's going to be very long.



Manning: More details on the (¹¹) for the queue are due shortly, but it's likely to begin near a park by Tower Bridge and travel a couple of miles up the Thames, passing the London Eye and the Palace of Westminster, then across Lambeth Bridge.

Amanda: And the smell is just incredible.

Manning: Amanda and Moira came to lay flowers but hope to return for the lying-in-state.

Moira: I think it's a once in a (¹²). You just want to be part of it.

Manning: And are you prepared to be in those, what are going to be very long queues?

Moira: Ah, well, there's the thing.

Amanda: Well, we're made of (¹³) stuff. So, we'll put it to the test. We'll put it to the test.



Moira: Yes. So, hopefully, yes. Yeah. Yeah, we would (¹⁴) it a (¹⁵).

Manning: It will be an (¹⁶) operation for the transport system and the police. The Met's commissioner on his first day in the job.

Sir Mark Rowley, Commissioner of Police of the Metropolis: It's a (¹⁷) challenge for the Metropolitan Police and for me personally, but we have been preparing for many, many years.

Manning: This ceremony will soon be (¹⁸) with simplicity, as the quiet walk past the Queen's (¹⁹) begins.

Notes

㊦ 2 **Green Park** 「グリーンパーク」王立公園の1つで、バッキンガム宮殿の北側に位置し、40 エーカー (16 ヘクタール) の広さがある。花がほぼ植えられておらず、樹木や芝の公園として知られている ㊦ 7 **Westminster Hall** 「ウェストミンスター・ホール」イギリス国会議事堂であるウェストミンスター宮殿にある大ホール。2022年9月14日から19日の国葬までの間、女王の棺が安置され、一般弔問を受け付けた ㊦ 12 **The Mall** 「ザ・マル」バッキンガム宮殿とトラファルガー広場を結ぶ930 m ある並木通り。儀式用の道路として19世紀後半から20世紀前半に作られた ㊦ 13 **Newcastle** 「ニューカッスル」イングランド北部タイン・アンド・ウエア州の港湾都市 ㊦ 19 **Lambeth Bridge** 「ランベス橋」ロンドンのテムズ川に架かる橋で、北側のウェストミンスターと南側のランベスを繋いでいる。橋脚は貴族院のベンチの色と同じ赤に塗られている。現在の橋は1932年に開通した ㊦ 27 **Tower Bridge** 「タワーブリッジ」テムズ川にかかる橋桁が跳ね上がる跳開橋。1894年に開通 ㊦ 28 **the London Eye** 「ロンドン・アイ」テムズ川南岸のサウスバンクにある大観覧車。イギリスの2000年記念事業により1999年に開業した ㊦ 28 **the Palace of Westminster** 「ウェストミンスター宮殿」ロンドン中心部のテムズ川河畔にある宮殿。11世紀半ばに王宮として建てられたが、1834年の火災で大半が焼失し、1860年に現在の建物が完成した。現在は英国議会が国会議事堂として使用している ㊦ 45 **The Met's commissioner** 「ロンドン警視庁の警視総監」正式名称は the Commissioner of Police of the Metropolis ㊦ 47 **the Metropolitan Police (Service)** 「ロンドン警視庁」イギリスの警察組織の1つで、大ロンドン一帯を管轄するとともに、王族や政府要人の警護の任務も担う。初代本部があった場所に因んでスコットランドヤード (Scotland Yard) とも呼ばれている

イギリスの国歌はジョージ2世 (George II, 在位 1727-1760) 治下の 1745 年に公の場で初めて演奏されて以来、現在まで同じ曲が使われていますが、実は 1 つの曲に対してタイトルや歌詞が 2 通りずつあり、君主が男性か女性かで使い分けています。これまでのエリザベス 2 世在位の約 70 年間、国歌のタイトルは「神よ女王を守り給え」(“God Save the Queen”)でしたが、この度のチャールズ 3 世の戴冠以後は「神よ国王を守り給え」(“God Save the King”)に変わりました。また、歌詞に出てくる代名詞も「彼女」「彼女の」(she, her) から「彼」「彼の」(he, his, him)に変更されました。これまでに女王版の国歌が歌われたのはヴィクトリア女王 (Queen Victoria, 在位 1837-1901) とエリザベス 2 世の時代のみですが、どちらも在位が長かったため、合計で 130 年を超える期間使用されたことになります。一方、男性版の国歌も合計で 140 年以上使われていますが、女王と比べて男性国王の変遷は激しく、チャールズ現国王で 9 人目です。

MOVING ON

Making a Summary

CD 1-04

Fill the gaps to complete the summary.

The Queen has passed away and soon her body will lie in state in Westminster Hall. There are many people in Green Park, with the (s) of flowers in the air. But that number of people will soon be (d) by the number of (m) who will queue for hours, and (f) past the Queen's (c) to pay their (r). They might even have to wait overnight. They have been asked to dress (r), and no flowers or cameras are allowed. Maria feels it is her duty to do it, as the Queen gave 70 years of (s) to the country. Vanessa is staying on a bench on Lambeth Bridge because she wants to be first in the queue. Amanda and Moira say they are prepared for the wait, as they're made of strong (s). According to the Commissioner of Police of the Metropolis, the event will be a (m) challenge, and also important to him personally, as it is his first day on the job.

Follow Up

Discuss, write or present.

1. Are you surprised that people would queue for so long? What do you think were the most important reasons?
2. Can you think of anybody else who is (or was) respected as much as the Queen was respected by those people?
3. In what other ways do we show respect for people who have died, and want to remember them?